長野環境人士

自然に優しく、暮らしを楽しく

小林光さん対談企画

NPO法人上田市民エネルギー理事長
藤川まゆみさんと語る

市民出資で信州の建物の屋根に太陽光発電パネルを設置する事業「相乗りくん」を展開するNPO法人上田市民エネルギー（上田市）の藤川まゆみ理事長（60）の夢は、屋根には太陽光パネルを置くのが一般的という認識が広がること。夢実現に向けて少しずつだが、出資者も設置する建物も増えつつある。

屋根に太陽光パネルを置きたいと思った住宅や事業所のオーナーが自己資金がなくても市民出資金を活用し、自己資金ゼロで設置できるのが「相乗りくん」。市民出資者には屋根に置かれた太陽光パネルによる発電の収益が還元される。屋根のオーナーは昼間、自宅などの屋根で発電された電力を安価で使うことができ、出資者は太陽光パネルを設置した屋根オーナーからの電気利用料と余った売電収入を基に配当が受けられる仕組みだ。

市民出資を活用し、初期費用ゼロで屋根に太陽光パネルを設置できる「相乗りくん」を紹介する藤川理事長

同事業を活用する屋根オーナーも出資者も増えつつある。経済的なメリットよりもむしろ「再生可能な自然エネルギーで生活をする気持ちの良さ」に魅力を感じているケースが多いという。太陽光は「初期投資が高い」「壊れやすい」「売電価格の低下で設置する意味が薄まった」といった認識で設置に興味があってもなかなか踏み切れない人も少なくない。ただ、藤川理事長によると、電力会社の買取価格は下がったが、太陽光パネルの設置費用も下がったため「太陽光を設置することは経済性の面からも大きな意味がある」とする。

海外では、低所得世帯向けの住宅にはあらかじめ太陽光パネルを設置し、住人が支払う電気代の軽減を通じて生活を支援する事例もあるという。

＝10面に対談

「相乗りくん」で太陽光発電普及

長野環境人士

自然に優しく、暮らしを楽しく

対談

小林光さん　藤川まゆみさん

小林光さん 73

元環境省環境事務次官。東京大先端科学技術研究センター研究顧問。茅野市行政アドバイザー（環境分野）

藤川まゆみさん 60

NPO法人上田市民エネルギー理事長

自然エネで気持ち良く

何かしたいに応え

小林　市民の出資金を活用し、初期投資ゼロで個人宅や企業の事務所に太陽光パネルを設置するNPO法人上田市民エネルギーの「相乗りくん」が注目されていますが、どのくらい広がってきましたか。

藤川　県内で72カ所、計約970キロワット（9月末現在）分の太陽光パネルを設置したところです。もうすぐ1メガワットを超える見込みです。「相乗りくん」が太陽光発電推進の象徴のような存在になったらいいなと思っています。

小林　仕組みを確認しておきます。屋根に太陽光パネルを置きたいけど、自己資金ががない。そこで市民の出資金を使って太陽光パネルを設置する。太陽光発電による収益を出資者に還元するというのが概要だと思います。一方で似たようなビジネスもあります。違いは何ですか。

藤川　地球温暖化に対して何かしたいという人のコミュニティーでしょうか。きっかけは東日本大震災の福島原発事故でした。原発に頼らない再生可能エネルギーへの転換に向けて「何かしたいけど、どうしたらいいの」。そうした人たちに「相乗りくん」を活用して太陽光発電の普及に協力してもらい「何かしたい」という気持ちに応えようと取り組んできました。

経済性高い時代に

小林　太陽光発電を住宅の屋根に設置した方がお得だということは理解しています。その上であえて聞きますが、太陽光パネルの設置に踏み切れないという人たちの理由とは何でしょうか。

藤川　まずは初期投資が高いというイメージですね。実際にはもっと安いのですが。それから業者さんに相談するのがもう一つのハードルですかね。公共的な相談窓口もあまりないので、関心もあるのだけど踏み切れないというのはあると思います。あとは、太陽光パネルがごみになるのではないかとか、反射して他人の迷惑になるのではないかといった心配でしょうか。ここにも誤解があると思います。再生可能エネルギーで発電された電気を国が定めた価格で電力会社が買い取るように義務付けた「FIT制度」の買取価格が下がったというのもあります。

小林　価格が下がったので太陽光は意味がないという考え方ですね。実際はどうなのでしょう。

藤川　意味は大いにあります。経済性が高い時代になってきたと思います。買取価格は下がりましたが、設置費用も下がりましたから。

小林　売電よりも屋根で発電した電気を使う方がお得ということですね。災害時に電力を自給できる面でも役立ちそうですね。

藤川　災害が発生し、停電しても昼間なら電気が使える。この安心感は大きいと思いませんか。

もっと普及に貢献

小林　どんな方が市民出資者となっていますか。

「相乗りくん」を活用して太陽光パネルを設置した住宅を前に語る藤川さん(左)と小林さん＝7月24日、上田市内

パネル設置する生活支援のかたち

当たり前の社会に

小林　生活保護の家にも冷蔵庫はありますものね。私はむしろ、生活保護世帯には太陽光パネルを設置を支援した方がいいと思っています。

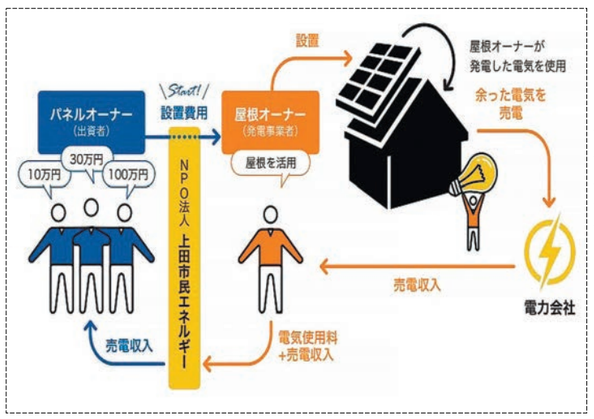
藤川　福祉的な施策とエネルギー施策はかなり近いところまできていると思います。一戸建ての市営住宅には最初から太陽光パネルを設置しておき、使った電気のうち、太陽光発電分は無料にする。そうした生活支援のかたちもありうると思います。

小林　ハワイの福祉住宅団地を視察したことがあるのですが、建物は日本で災害が起きた際に使った避難住宅を寄付してもらい使っていました。屋根には太陽光パネル、さらに蓄電池を用意していました。だから住人の電気代はほとんどかからない。収入が少ないからこそ太陽光発電で生活を支援する発想です。

藤川　リユースできる程度の中古の太陽光パネルが大量に出てきたときに福祉向けに活用していくという考え方もできそうですね。日本はリサイクルのイメージが強いようですが、リユースができるものはしないともったいない。

小林　今はまだ、屋根を使った太陽光発電をやっていない家庭の方が多い。逆に言えば伸びしろが大きいと言えそうですね。

藤川　はい。設置家庭が一定程度まで広がれば、その先は太陽光パネルの設置が当たり前と感じる人が多くなると思うのです。そんな社会が早く訪れるといいですし、そのために私たちも頑張ります。



相乗りくんの仕組み

藤川　市民出資者は320人になりました。以前は屋根が小さかったり、アパートやマンション住まいだから太陽光ができないという方に出資という形で太陽光を始めるメリットを伝えていました。今は、太陽光パネルは設置済みだが、もっと普及に貢献したいという理由で出資者が増えています。

小林　設置された方の感想はいかがですか。

藤川　太陽光に関心を寄せる理由を尋ねたところ、「自然エネルギーで生活したい、事業をしたい」が最多でした。経済的なメリットよりも自然エネルギーで生活している気持ちの良さに魅力を感じる人が多いようです。

使うことで得する

小林　ただ、経済性も大事ですよね。

藤川　太陽光を設置した場合としなかった場合、「相乗りくん」を活用した場合の金額的な差は個別に計算してお示しできます。経済性は大きな関心ごとですから。太陽光は売電して儲かるというよりも、使うことで得をする。そういった意識が広がるよう努めています。住宅の断熱性を高めたり、ガソリン車を電気自動車に買い替えたりするのも大切ですが、それより費用対効果は大きいと思います。

小林　太陽光パネルは壊れるという心配をする人がいますね。

藤川　そんなことはないと思います。「相乗りくん」で設置した太陽光パネルを修理したのは過去12年間の中で2件だけです。正しい理解が進み、太陽光パネルが設置できる屋根にはすべて取り付けられるような時代が早く訪れるといいと思いますね。冷蔵庫や洗濯機がない家がほとんどないのと同じように。